

令和3年度病虫害発生予察予報第4号(7月)

令和3年7月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生面積※
水稲(早期稲)	いもち病(穂いもち) ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ 斑点米カメムシ類	<u>多(東、中央、西)</u> 、やや少(中西) <u>多(東、中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>多(東、中央、西)</u> 、平年並(中西) <u>多(中央、西)</u> 、平年並(中西)、やや少(東) <u>多(東、西)</u> 、平年並(中央、中西)
水稲(普通期稲)	いもち病(葉いもち) ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ	<u>多(東、西)</u> 、平年並(中央、中西) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西)、やや少(東、中西) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、中西、西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(東、中西)
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u>
かんきつ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	<u>やや多(東)</u> 、少(中央、中西、西) <u>多(中央、中西)</u> 、やや少(東、西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東、西)

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方気象台 7月1日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞7月3日から8月2日

向こう1か月の気温、降水量、日照時間は、いずれもほぼ平年並でしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並の確率30%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並の確率40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		20	50	30
3～4週目		30	40	30

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：7月3日（土）～8月2日（月）

1週目：7月3日（土）～7月9日（金）

2週目：7月10日（土）～7月16日（金）

3～4週目：7月17日（土）～7月30日（金）

II 病虫害発生予想

1 早期稲の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

発生量：多（東部、中央部、西部）、やや少（中西部）

根拠

(1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、東部でやや多く、中西部で少なかった。また、発生程度はいずれの地域も平年並であった。

(2) 7月前半は、平年と同様に曇雨天の日が多いと予想されていることから、いもち病の発生には好適な条件であり、発生は増加するものと考えられる。

(3) BLASTAM（葉いもち発生予測システム）では、5月19日前後に県内のほぼ全域で感染好適日が初めて確認されて以降、周期的に感染好適日が確認されている。7月上旬には早期稲の主力品種であるコシヒカリの出穂期を迎えるので、県東部、中央部、西部を中心に葉いもちから穂いもちへの移行が予想される（BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病虫害防除所HPを参照）。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。

2) ツマグロヨコバイ

発生量：多（東部、中央部、） やや少（中西部、西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県東部と中央部で平年よりも多く、中西部と西部で少なかった。また、発生程度は県東部で平年よりも高く、中央部と中西部で平年並、西部でやや低かった。
- (2) 7月の後半は平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 近年、本虫が媒介する萎縮病の発生はほとんどみられていないが、出穂期から登熟期にかけて高密度になると実入りが悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

3) ヒメトビウンカ

発生量：多（東部、中央部、西部）、平年並（中西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県東部、中央部、西部で平年よりも多く、中西部でやや少なかった。また、発生程度は東部で平年よりも高く、中央部、中西部で平年並、西部でやや低かった。
- (2) 7月の後半は平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないことや高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低い。

4) セジロウンカ

発生量：多（中央部、西部）、平年並（中西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部を除く地域で発生がみられた。発生面積は、県中央部と西部で平年よりも多く、中西部では少なかった。発生程度は、中央部でやや高く、中西部と西部で平年並であった。
- (2) 7月の後半は平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。また、未発生地域も発生がみられるようになると考えられる。

対 策

- (1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガと同様に中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来があった場合など、高密度になった場合には薬剤防除を行う。

5) 斑点米カメムシ類

発生量：多（東部、西部）、平年並（中央部、中西部）

根 拠

(1) 6月の調査では、県東部で圃場の中で散見されている。また、6月中旬のアザミウマ類のすくい取り調査時(出穂前)に、西部でクモヘリカメムシなどが捕獲されている。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 普通期稲の病害虫

1) いもち病（葉いもち）

発生量：多（東部、西部）、平年並（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県東部と西部で平年よりも多く、中央部と中西部では少なかった。発生程度は、県東部、中央部、西部で平年並、中西部で平年よりもやや低かった。
- (2) 7月前半は、平年と同様に曇雨天の日が多いと予想されていることから、いもち病の発生には好適な条件であり、発生は増加するものと考えられる。
- (3) BLASTAM（葉いもち発生予測システム）では、5月19日前後に県内のほぼ全域で感染好適日が初めて確認されて以降、周期的に感染好適日が確認されている（BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病害虫防除所HPを参照）。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

発生量：やや多（中央部）、平年並（西部）、やや少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部を除く地域で発生が見られた。発生面積は中央部で平年並、西部ではやや少なく、中西部では少なかった。発生程度は、中央部、中西部、西部とも平年よりもやや低かった。
- (2) 7月の後半は平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。また、未発生地域も発生がみられるようになると考えられる。

対 策

- (1) 近年、本虫が媒介する萎縮病の発生はほとんどみられていないが、出穂期から登熟期にかけて高密度になると実入りが悪くなることがあるので、その場合は他の

病害虫とあわせて防除を行う。

3) ヒメトビウンカ

発生量：多（中央部）、やや少（東部、中西部、西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県中央部のみで発生がみられ、発生面積は、平年よりも多かったが、発生程度は平年並であった。
- (2) 7月の後半は平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。また、未発生地域も発生がみられるようになると考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないことや高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低い。

4) セジロウンカ

発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積、発生程度とも、いずれも平年並であった。
- (2) 7月の後半は平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。また、未発生地域も発生がみられるようになると考えられる。

対 策

- (1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出る可能性があるため、薬剤防除を行う。

3 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年よりもやや多かったが、発生程度は平年並であった。
- (2) 7月前半は平年と同様に曇雨天の日が多く、降水量は平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

発生量：多（中央部）

根 抛

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は平年並であった。
- (2) 7月前半は平年と同様に曇雨天の日が多く、降水量は平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

発生量：やや多（中央部）

根 抛

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年よりもやや多かったが、発生程度は平年よりもやや低かった。
- (2) 7月の気温は平年並と予想されており、本虫は高温期には増殖が緩慢となることから増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

発生量：やや多（東部）、少（中央部、中西部、西部）

根 抛

- (1) 6月の調査では、県東部のポンカンなどで発生が見られ、発生面積は平年並、発生程度は平年並であった。
- (2) 7月前半は平年と同様に曇雨天の日が多く、降水量は平年並と予想されていることから、感受性の品種を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生が多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

発生量：多（中央部、中西部）、やや少（東部、西部）

根 抛

- (1) 6月の調査では、県西部を除く地域で発生がみられ、発生面積は中央部、中西部で平年よりも多く、東部で少なかった。また、発生程度は中央部、中西部で平年並、東部で平年よりも低かった。
- (2) 7月前半は平年と同様に曇雨天の日が多く、降水量は平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

発生量：多（中西部）、やや多（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部と中西部のポンカンで発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。また、発生程度は各地域とも平年並以下であった。
- (2) 7月前半は平年と同様に曇雨天の日が多く、降水量は平年並と予想されていることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

発生量：多（中央部）、やや多（中西部）、平年並（東部、西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部でやや多く、東部、西部で平年並であった。発生程度は、各地域とも平年並以下であった。
- (2) 7月の気温は平年並と予想されており、本虫は高温期には増殖が緩慢となることから増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.